
なくした

長月 夕子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
なくした

【Nコード】
N3520E

【作者名】
長月 夕子

【あらすじ】
さがしものはなんですかみつげにくいものですか

インターフォンが鳴ったので、玄関のドアを開けた。

そこには彼が立っていた。

「なくしちゃったみたいなんだ」

と彼が言った。

「何を？」

と聞くと

「それが思い出せないんだけど、とにかく君の部屋でなくしたみたいなんだ」

玄関で話していても仕方がないので、私は彼を部屋に入れた。

なくしたものの大きさとか色とか形とかを聞いても、思い出せないと彼は首を振る。仕方がないので、好きなように捜させる事にした。どうせ2DKの狭いアパートだ。さがすところなんて限られている。

彼はまず玄関の靴箱を開け一通り見終わると、キッチンの引出しやら開きやらを片っ端から調べていった。それからお風呂場、トイレ、トイレは便器の中まで覗いた。

しかし目的のものは見つからないらしく、次から次へとさがし続ける。

またキッチンに戻って塩の入ったビンまで開けたので、「そんな小さいものなの？」と聞くと、「わからない」と首を振りながらも、さがす手を休めなかった。

フローリングの部屋も、テレビの下とかビデオの奥とか本棚の間とかカーテンの裏とか闇雲にさがし回っている。

「ねえ、何か手がかりのようなものはないの？ひとつでもあれば、私も手伝えるよ」

そう声をかけたが、彼は黙って首を振った。どうしようもないので、私はそんな彼の姿をただ見ているしかなかった。

「こっちの部屋も見ていい？」フロアリングの部屋を一通りさがし終わって、彼が言った。

「いいよ。でも、ダンスくらいしかないけど」

隣の和室のドアを開ける。そこには本当にダンスしかない。

彼はそのダンスを、上から順番に丁寧にさがしていく。けれどやっぱり見つからないようだ。

押入れに気がついた彼は、そのふすまをそつと開けた。

そこには男がいる。男は膝を立てて座っている。体を壁にもたれさせ、首は不自然なほどうつむいている。右手がだらりと下がっている。しまつてある布団はぐっしりと血を吸い込んで真っ赤に染まっている。

「ああ」

と彼は言う。

「俺がここでなくしたものは、俺の体だ……」

「忘れてたの？」と私が聞く。

「忘れてた」と彼が答える。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3520e/>

なくした

2010年12月2日01時45分発行